

音楽委員会

1、研究テーマ

「表現する喜びを味わえる音楽授業」
～友達と関わりながら学習を進め、ハーモニーを創ることのできる

2、研究課題

音楽科ではハーモニーを生徒同士が関わり合いながら作り上げていく授業作りをめざして、以下の3点を中心に研究を深めた。

楽曲との感動ある出会いの場の設定

学習の見通しを持たせるための、学習スタイルを定着させる工夫

生徒同士が関わり合い、感性を認め合う場の設定

3、指導の実際

授業実施日	6月28日(水)
題 材 名	「声の重なりを感じて歌おう」
教 材 名	「大地讃頌」「常磐中学校校歌(混声四部合唱)」
指 導 者	島津和平 先生(綿内小学校長)
授 業 者	塚田 京子 教諭
授 業 学 級	常磐中学校 3年3組

「いつもの通り発声練習します。」という塚田先生の声がけで始まり、発声練習とハーモニー練習をテンポ良くすすめ、毎時間の練習の積み上げが、一生懸命歌う生徒達の姿、ハーモニー感につながっていることを感じました。その後「校歌」を各パート→2パート一緒に歌い。四部合唱の校歌の始めのイメージを思い出してから、班ごとの願いを出していました。「♪これぞくおんの～♪のだんだん入ってくる所がかっこいい。しっかり声を出してハーモニーを作りたい。」などの生徒の願いにそって各チェックポイントの確認をしてから、グループ練習へがスタートしました。グループ練習の中では、どのグループもリーダーの生徒が中心になり、テンポ良く練習を進めていました。チェックポイントの部分を中心に何度も何度も熱心に練習に取り組むことができていました。音程が不安なパートがあると、バディー練習に戻ったり、キーボードで音を入れたりしながら練習を進めていた。

最後に全員で歌って、各班の練習してきたチェックポイントについて確認をして、通して歌いました。最後の生徒の感想では、「重なり合うところすごくクリアに聞こ



えてきたし、男子の主旋律が良かったです。」「最後の和音がすごく響いていて良かったです。」などの感想が出された。

4、この事例から明らかになったこと

楽曲との感動ある出会いの場の設定

- ・ 常磐中学校の創立 60 周年記念式典に合わせて混声 4 部合唱に編曲され、自分たちが中心になって全校生徒でお披露目をするために、慣れ親しんだ校歌と再び感動的な出逢いをしたことで意欲的に取り組むことができた。

学習の見通しを持たせるための、学習スタイルを定着させる工夫

- ・ 「パート練習→バディ→バディペア→バディカルテット→全体合唱」の練習方法を示して練習しており、普段から練習の方法、練習形態が身についていた生徒達であったので、グループ練習の中で、音が不安定だったバスパートがもう一度音程を確認するといってバディ練習にフィードバックしていた姿がみられ、生徒が主体的に活動することにつながったと思われる。
- ・ チェックポイントを中心に部分練習をすることについて効果的であった。ひとりひとりが自分のパートを歌うことに一生懸命なので、バランスを考えて互いに聴き会うことは難しかった。客観的に聴けるように録音をしたが、狭い部屋の中で 3 グループが一緒に練習したため、音が混ざってしまい、自分たちの音が聞こえなかった。自分たちの声が聞こえる場所の設定が必要だった。
- ・ バランスや音程の判断をする耳をどう育てるか。
- ・ 教師のねらいと生徒の意識のずれがあるのではないか。

生徒同士が関わり合い、感性を認め合う場の設定

- ・ リーダーを中心に、テンポの良い練習をすることができていた。また、バランスの悪さや、音程の悪さに気づいている生徒もいたが、直す方法や直すための練習の仕方が分からないでいた。
- ・ 一緒に歌ってしまおうと、バランスや音程がわかりづらいので、聞き役を少し離れたところで聴かせると良い。

5、来年度への課題

- ・ 狭い部屋の中で 3 グループが一緒に練習したため、音が混ざってしまい、自分たちの音（歌声、発言の声）が聞こえなかった。また、聞き役を少し離れたところで聴くようにするなど、自分たちの声が聞こえる場所の設定を工夫していく。
- ・ 研究内容を推進委員一人一人が、実践事例を持ち寄る形で深めてきた。子どもの実態は違うが、同じ課題についてそれぞれの立場から一緒に研究を深めていくという点で来年度も続けていく方向で進めていきたい。